

平成26年度第1回流山市産業振興審議会会議録

- 1 日 時： 平成26年6月17日(火) 14時00分～16時00分
- 2 場 所： 流山市役所第2庁舎302会議室
- 3 出席委員： 古坂稔委員、土屋薫委員、洞下英人委員、池森政治委員、
山崎日出男委員、秋元篤司委員、高橋啓治委員、藤本隆委員、
菅野洋介委員、片岡晃一委員、山田伸委員、佐藤元子委員、
伊藤基委員
- 4 欠席委員： 坂巻儀一委員
- 5 事務局： 福留産業振興部長、金子産業振興部次長、山崎農政課長
精木商工課長補佐、秋元農政係長、柳商工係長、房野主事
稲村事務員
- 6 議題：
- 1) 新川耕地の有効活用について（答申後の動向）
 - 2) 産業振興審議会答申（平成21年7月）に係るこれまでの取り組みについて
 - 3) 今年度の進め方について
- 7 議事録（概要）：
- 1) 進行説明・4月1日の人事異動に伴い、新たに着任した職員の紹介
 - 2) 福留部長あいさつ
 - 3) 古坂会長より開会の言葉
 - 4) 委員による自己紹介
 - 5) 新川耕地の有効活用について（答申後の動向）
(ア) 事務局より説明（資料1）

<質疑応答>

- 古坂会長 ただいま事務局より説明のあったことについて、質疑応答はあるか。
なお、いま説明があったように、具体的なスケジュール等は、7月に議会への説明が行われることから、次回の審議会にて説明とのことで、皆様に資料を提示するとのこと。
市長の答弁の中で、下花輪地区のことにも触れられているが、これは別の地権者組織があるということか？
- 福留部長 その通りで、別の質問があり、それに対して答弁をした、という事。

- 片岡委員 現状はわかるが、地権者の意思だからといって、市はそれに沿えばよいというものではない。I地区、工業団地の南地区18ヘクタールについてはその後どうなったか、部長にお伺いしたい。
- 福留部長 新川耕地全体についての高さ制限について、市としては協議を開始した、という段階。第一物流の高さ制限については、20メートルになっているのに対して、工業団地南側は高さ制限が10メートルとなっており、開発しやすいように、協議を開始した。
- 片岡委員 条例改正は市でできるが、農地法の関係がある。農地転用は国でしかできない。
- 金子次長 I地区については、市としても農地転用ができなければ進まないということに理解している。
- 古坂会長 また次回の審議会において、具体的な話があるということなので、議題1については以上とさせていただきます。

- 6) 産業振興審議会答申（平成21年7月）に係るこれまでの取り組みについて
 (ア) 事務局より説明（資料2）
- 7) 今年度の進め方について
 (ア) 事務局より案の提示（資料3）

<質疑応答>

- 古坂会長 ただいま事務局より説明があった。この現状を踏まえて、議題3に進むのが良いと思われるが、質疑応答はあるか。
- 片岡委員 行政の役割というか、企画が市役所で、実行部隊が会議所という位置づけなのか。自分の周囲では、大型スーパーなどができて便利な状況だが、商店街は消えて行っている状況だ。これを市としてはどう見ているのか。
- 金子次長 商店街は厳しい状況にあるが、市が直接、個店に対して補助をするということはやっておらず、自助努力をお願いしている。市としては、資金融資といった事業や、商工会議所を通じて側面支援している状況。
- 古坂会長 前回の審議会では、全市をひとつの商店街とみて答申を出し、共通のポイントカードが導入されたという経緯がある。今後のテーマとして、商店街の活性化というのは、突き詰めれば、行政と会議所と商店が共同で仕掛けた、このポイントカード事業の活性化というの

が重要なテーマであると、個人的には考えている。

片岡委員 今のお話だと、「商店街の活性化」というのが、個別の商店街の活性化という意味ではないという事か。

古坂会長 そのように考えている。これも踏まえて、今年度の審議会の進め方を考えて参りたいと思っている。農商工連携と、商業活性は共通点があるが、これを同時進行で両方議論していくべきか、分けて議論していくべきか、皆さんの意見を伺いたい

土屋副会長 分かれて議論を行うことで、皆さんの力も半減してしまうのかなという懸念はある。

前回答申の「産業コミュニティ」とは、今どきの言葉で言えば、「キュレーション」というのか、単に農商工連携というだけでなく、交流人口も含めて市外の方々ともどのようにつながっていくのか、ということがある。2つのテーマは、根は通じていると思われるので、2つに分けない方が良いのではないかと考えている。

洞下委員 テーマがあまりにも広過ぎるので、その中でも絞り込みを行わないことには、時間的・期間的な面からも、答申としてまとめられないと思われる。

池森委員 答申までにあと何回行う予定か。

古坂会長 予定ではあと4～5回である。具体的なアイデアというよりも、方向性や考え方としてまとめるということになると思うが、二つのテーマを並行して行っていくというのはなかなか難しいのではないかと考えている。

秋元委員 自分は勤め人をやりながら農業をやっている。いわゆる「農産地」として成立している地域にはどうしても負けてしまう。彼らはスーパー相手に取引をし、価格も安定している。自分たちは直売所などを通じて販売をしている。やはり「流山産」であること、つまり「私がつ作っています」ということしか売りにできない。「我々が自信を持って作っています」ということしかアピールできないのではないかと考えている。

今回のテーマに関しても、今まで様々な取り組みがあったと思う。財源のあるところは、次々に施策を打って行けると思うが、流山市ではそういったやり方はなじまない。今までやってうまくいかなかったことをしっかり見直し、メンバーを代え、検討を進めていった方が良いと思う。

その際、市民の皆さんに、流山への愛着や帰属意識に訴える、ということは大変なことだと感じている。

- 片岡委員 秋元委員のおっしゃる通りで、市民も「安心・安全」や「新鮮」を求めている。要するに「ブランド化」の話だ。たとえば我孫子には、地産地消協議会があるが、流山にはまとめ役がない。流山も個々の規模は小さい。自分も農業法人は作ったが、結局は社長の経営力にかかっている。本来は農協の役割であるが、それもかなわない。ここは市のコーディネートが重要である。
- 佐藤委員 主婦の立場から意見を言う。アンテナショップが一つしかないことが初めて知った。初めは何を売っているか知らなかった。店内も薄暗く、入っても「いらっしゃいませ」や「ありがとうございます」の言葉もない。あれでは活性化する訳がない。流山の姉妹都市のものも多く置いてあるが、どんなものかは聞いてみないとわからない。買ってみれば結構よい品物が多くあるので、接客、店づくり、アピールをもっと頑張れば売れるはずだ。
- 池森委員 アンテナショップには、2年ほどまでは補助金が出ていたが、現在はもう無いので、自立経営をされている。
- 古坂会長 規模に限らず重要なのは、「接客」である。農業にも言えることで、お客様を見てどういうものを作り、売るかということ。
- 藤本委員 自分は前回の審議会も参加し、かなり議論を尽くした。具体的に何をやるか、ということが、なかなかこの場では決まらないのが事実。自分の提案で、「産業コミュニティの形成」を盛り込んだ。単なる市民が関わるコミュニティづくり、ということではなくて、「ビジネス」を絡めるのがキーである。前回の方向性を正とするならば、具体的な内容について、どのようにやっていくかという事を、このメンバー以外も含めて、喧々諤々やり、中身を構築し、計画策定まで行くべきでないかと思う。一度、事務局にて整理して頂いて、コンセプトや方向性を明らかにし、説明頂いて、修正するなら修正する、ということで進めてもらいたい。
- 古坂会長 推進委員会を立ち上げ、具体的に進めたいという事と理解した。たとえば商工会議所には青年部もあり、そういった方々を巻き込むことも考えられる。
- 藤本委員 農業を核にして、発展させていくことが考えられる。それを市民参加型のものにしてビジネスとして発展させたい。
- 高橋委員 「商店街」に関して確認したい。「商店街」と呼べる商店街は市内にいくつあるのか。
- 古坂会長 いわゆる商店街組織は市内の随所にあるが、市民が商店街と聞いて

イメージするような、商店街が連なったエリアは江戸川台東口のみしかない。

高橋委員 商店街に属する方々同市が話し合いをして、どう活性化するかを話し合うというイメージが良いのではないか。

古坂会長 「商店街の活性化」という言葉より、「商店全般の活性化」という方がふさわしい。農業も商業も、やる気のある方々がいるので、どのようにその人たちをステージにあげるかだと思われる。

山崎課長 今回、若手農業者のグループが立ち上がった。6月19日に意見交換会を予定している。農商工連携も含め、いろいろとご意見を伺いたいと考えている。

池森委員 やり方次第であると思う。やる気がある人が集まらねばならない。そのお膳立てをするのが我々の役割だ。

古坂会長 限られた回数の中で実のある議論を進めていくには、前回の答申のその後をしっかりと検証し、進めていく必要があるのではないか。進めていく上でどんな課題があるのか整理をし、それに対して市はどのように取り組んでいくべきかを議論することが重要なのではないか。

山田委員 産業コミュニティについて言えば、現在も必要性があるのであれば組織化に向けて動くべきであるし、組織化できなかったとすればどのような課題があるのかを検証しなければならない。

農商工連携については法律・スキームができた。県でも、事業を助成する補助金制度ができた(稲村注:ちば農商工連携事業支援基金)が、それが事業者には知らされているのかどうか疑問だ。こういったものを使ったらどうかという提言もあるだろう。ほかにも様々な制度があり、利用する価値がある。

新しいことを議論するより、あるものをしっかりと議論した方が良いと考える。

伊藤委員 制度を勉強しないといけないと痛感した。新しくビジネスを始める人を支援する、インキュベーター的な役割が市の方で担えるとよいのではないかと考えている。

古坂会長 皆さんの意見が出揃った。この意見を事務局でまとめてもらいたい。方向としては、「産業コミュニティ委員会」のようなやる気のある人たちによる組織づくりが大事なのではないかと考えた。商店街活性化については、商業全般の活性化で考えた方が良く考えている。次回に向けて、商工会議所からは、ながぼんの課題などを出してもらいたい。

方向性は出たと思うので、次回、具体的に絞り込んでいきたいがそれでよいか。

片岡委員 分科会についてはどう考えるのか。それぞれ似ているようで性質が異なるので、2つに分けた方が良いのではないかと思う。

古坂会長 委員の皆様の考え方次第である。事務局で意見を集約し、分科会の設置について、会議の開催方法も含めてアンケートをとってはどうか。

福留部長 了解した。

藤本委員 農業事業者の若手グループの会合に、我々も参加させてもらいたい

山崎委員 これから結成のため、今回はご遠慮頂ければ…

福留部長 結果はご報告します。

古坂会長 やる気のある人たちをどう応援するかに尽きると思われる。次のステップに入ってまいりたい。

金子次長 長時間に渡り、議論頂きありがとうございました。皆様からの意見を事務局で集約・精査するとともに、成功事例を集めるなどしたい。次回の日程を調整したい

<<次回は8月5日(火)14時~16時で決定>>

古坂会長 では事務局は、開催通知を出してほしい。本日は以上とする。ありがとうございました。